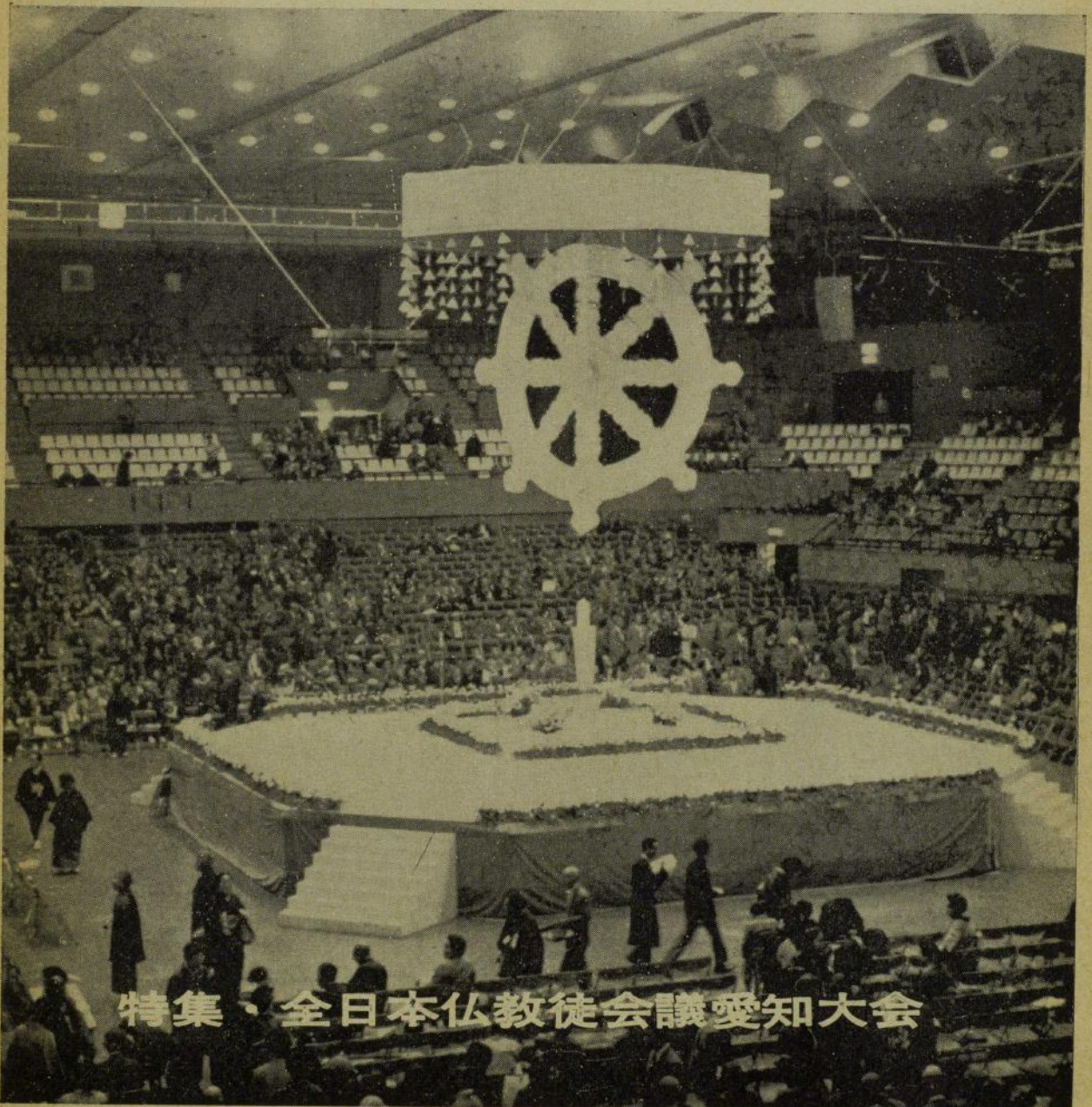




7月号 発行所 全日本仏教会 東京都中央区築地3の15の1(本願寺内)振替東京37600
発行人 伊藤勝淳 編集人 柳 了堅 電話 (542) 2969・8666 (541) 0313

仏教徒のねがい

1. 仏に帰依し、仏の教えに帰依し、仏の教えをおおぐ人々に帰依して正しく明るく生きぬく人間となります。
2. 仏の智慧と慈悲に照らされて、さとり道求め、真実の自己にめざめると共に、多くの人々に仏のおしえを伝えます。
3. みずから戒めを守り、行ないを反省し、生かされている身の幸せに気づいて、あらゆる恵みに感謝し、歡喜と愛情をもって明るい生活を築きます。
4. みずからとらわれと偏見をすてて、真実を正しく見、創造力を養い、個性を伸ばし、よろこんで世のためにつくして、自他平等の幸せな社会を作ります。
(全日本仏教会制定)



特集・全日本仏教徒会議愛知大会

大 歡 喜

愛知大会

押しよせた参加者
で混雑する会場入口
(午前 8 時30分うつつ)



広い、とても広い。その大会場のドームに、無数にちりばめられた照明が消え、静かな、ゆるやかな溶開。参列者席は、すべてのままの暗夜に沈んだ。
直径五メートルもあるうか、吊り下げられた大法輪、その下にしつらえられた中央ステ

ージ、それだけがくつきりと鮮やかに浮かび出る。ステージ中心の円柱形の献灯が、なにかを暗示するような、幽玄な光りを湛えている。おびただしい生花が飾られている。花は平和と慈悲の象徴である。
ときに午前九時三十分。定められた時刻に

感激の感興を拓く

日 程

第1日 6月3日(金) 愛知県立体育館

開 会 式 (前9時30分)

参加者着席・来賓着席
開会宣言
ウエサカ祭
式辞・あいさつ・来賓祝辞
感謝状贈呈
メッセージ・祝電披露

総 会 (前10時30分)

開会の辞
仮議長着席・議長団選任・議長団代表あいさつ
議事運営委員すいせん
議事運営および議事規則説明
全日本仏教会事務報告
部会編成の説明・議案配属
部会長選任
宣言決議起草委員選任
日程の説明

アトラクション (前11時30分)
郷土芸能 "放下おどり"
昼食(正午)仏舍利奉安塔礼讃(後1.00)

部 会 (後1.30—4.30)

第1部会 日泰寺 第2部会 日泰寺
第3部会 愛知学院大学歯学部講堂
第4部会 県立体育館

聖 餐 会 (後5.00)

第2日 6月4日(土) 愛知学院講堂

総 会 (前9.00)

一同礼拝・開会の辞・議長選任
各部会の報告・質疑・討論・採決
感謝決議文案上程
宣言決議文案上程
議長あいさつ

閉 会 式 (前11.00)

開式の辞・三婦依文斉唱
全仏当局あいさつ・地方代表あいさつ
次回開催地に関する要望発表
万才三唱・閉会の辞

散会・観光出発 (後1.00)

あゝこの法悦・この

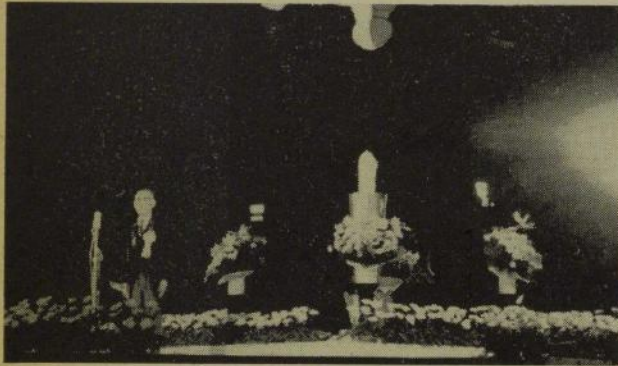
第14回全日本仏教徒会議

……仏国浄土もかくばや……

開会式であいさつを述べる

大会委員長竹田鉄仙師

(愛知県仏教会会長・愛知学院大学学長)



寸秒の狂いもない開式である。二万五千人が、ひとしく息を凝らす一瞬である、ひとときの静寂が大会場を包んでいる。いままで無人であった中央ステージに、ふたりの人が現われた。会場といい、諸装置といい、あまりに道具立が大きいので、小さな人形が動いているようだ。

清らかな頌歌

司会者(柳 了堅全仏組織部長)のアナウンスにつれ、全仏伊藤勝淳組織局長のおごりかな、そして力強い開会宣言。どこからともなく、胸にしみとおるような行事鐘の音(ね)が流れる。

若い声が東正面から湧きあがった。「捧ぐみあかし」に続いて厳かな三浦依文の斉唱、それから「ウエサカの歌」、高く低く清らかな頌歌の諸調……。名古屋にある仏教主義学校の、男女学生生徒二千人の聖歌隊である。ウエサカ祭典が始った。椎尾弁匠大僧正がウエサカ祭讃仰会長として、この日の喜びを述べる。

やがて大会総裁全仏会長岸信宏殿下の式辞、そして豊原大潤全仏理事長のあいさつ、開催地、愛知県仏教会長で大会委員長長の竹田鉄仙師のあいさつなどが簡潔に終る。

大盛典を讃える

来賓の祝辞である。まず、重要国務のため

心ならずも不参の中村文部大臣に代って、中野文門文部政務次官、駐日タイ国大使オベブリン・ウアニクル氏、桑原愛知県知事、杉戸名古屋市長などがつきつきに、この大盛典を讃え喜ぶ。

東京都仏連、神奈川県仏の両会長に全一仏教運動推進の功績、長野県仏会長に仏教徒会議に対する功勞により、晴れの表彰状、仏旗および感謝状が岸会長から授与される。メッセージ、祝電披露があつて午前十時三十五分、式を閉じる。

総

会

同十時三十五分総会にうつる。稲田全仏総務局長の開会のことば、仮議長(伊藤全仏組織局長)による議長団選出、議長団代表あいさつ、議事運営委員選出と進み、黒田全仏事務総長から、全日本仏教会四十一年度の事務概要についての報告。つきに議事規則、部会編成についての説明、議案の部会配当、部会長団選出、宣言起草委員の選任があつた。

このうち竹田愛知県仏教会長から、名古屋市内にある身障者と養護施設を大会の決議をもって慰問したいとの要請があり、満場の拍手を浴びて可決された。

議長 団

宣言決議起草委員

議事運営委員

中村貞元 訓覇信雄 小林大嶽
片山日幹 草繁全弘 上野頼栄
小野塚潤澄 竹田鉄仙 来馬道
断倉持秀峰 山本杉 金剛秀
一 阿部竜伝

大河内智香 奥博良 佐藤寛雄
白川良純 西本橋作 舟橋一哉
精園俊介 江川太禪 青樹堯然
藤井智海 友広和 吉田通俊

(全 仏)
古宇田亮宣 木村智広 神野真
一 小野島元雄 松田明道 真
溪義貫 摩尼清之 藤井真水
今井大彰 岡野貴美子 古屋道

雄岩本昭典 山田一真 増田 宇佐美諦練 玉井俊明 桑山春 鈴木快聖 富永いと
 貞円 岩堀至道 高山有進 山 山
 山尾修 平沼とみ 白木さく
 伊藤いそ

部会長 団

助言者

(地 元)
 藤井香嶺 杉山健静 坂野鉄城 松村寿頭 熊野竜夫 水谷教章
 市川良一 竹村賢祐 土方玄海 玄武貴章 間野敬重 清水谷孝
 山田義雄 渡辺彰準 内藤潮邦 尚別所弘因 竹中素仁 福山
 吉田秀光 早川道逸 近藤玄識 忍裳 塚原徳応 久保田精順
 大光明真雄 小林洞竜 成田芳 黒田竜雄 船口暉子 菱山照暢
 随安井溪洲 原浩 大橋良冲 河合智海 山口貴美子 西沢は

鈴木敏範 狩野獲麟 美濃部薫
 一若山超閑 中山理々 加藤
 諱進 石井真峰 藤井制心 伊
 東脩己 深田英雄 石上慈敬
 木全かず 牧野ます 栗本俊道
 林靈鳳

アトラクション 放下おどり

無形文 郷土芸能
 化財の

同十一時三十分からアトラクション。無形文化財の郷土芸能「放下おどり」である。「放下おどり」は、またの名を「念仏おどり」といい、仏教徒の集りの余興にまさじにタリのものであった。

伝承によれば、平安末期から源平時代にかけて、俗事を放擲して仏道に精進した放下僧たちに始まり、一時、遊芸人の芸能になっていたが、徳川中期になって奥三河、西濃一帯の農民の精霊まつりの盆おどりになって、いまなお親しまれているのが、この放下おどりの来歴という。地元の保存会の出演、竹山久夫氏の解説で披露、「庭入り」の踊りに始って「おひねり」踊り「道行」と続き、はやしの仏教音楽のリズム、白と黒だけの単純な衣裳や小道具などひどく印象的だ、人を三河

念仏の時代の夢幻境に誘い入れるような、妖しいまでの神秘さを漂よわせた。

各部会の会場へ

アトラクションが終ると昼食。参列者はバスに分乗して、各部会の会場へ向ったが、部会開会前、駐日タイ国大使、岸全仏会長はじめ会衆一同は、覚王山の仏舍利奉安塔礼讃に参列した。

第8回世界仏教徒会議参加

きたる11月7日より、11日にわたり、タイ国第2の古都チェンマイ市で第8回世界大会が開催されますので下記により代表を募集します。混迷するベトナム情勢など国際問題は容易ならざる現在、世界各国の仏教徒と、仏陀垂示の真の平和国土実現のため、懇談の機会をもつことは洵に時宜を得たものと存じます。何卒多数の代表がこれに参加されることを切に望むものであります。

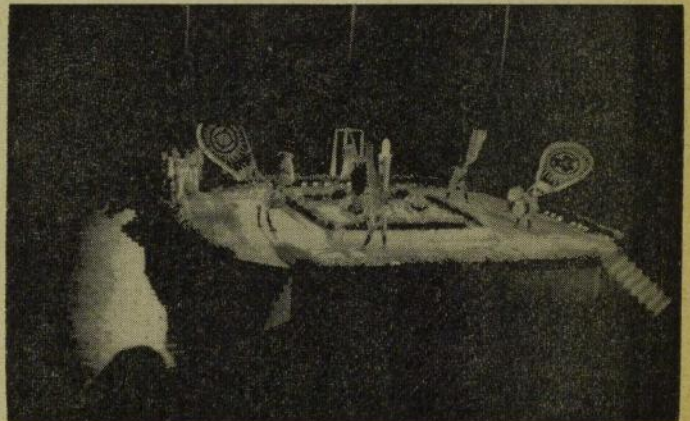
日本仏教代表団員募集

財団法人 全日本仏教会 (WFB日本本部)

期 間
 11月6日(日)より同月17日(木)迄(A班)
 11月5日(日)より同月25日(金)迄(B班)
 費 用
 A班(20日間)39万1千500円
 B班(20日間)39万1千500円
 巡 回 先
 A班 タイ、カンボジア、香港、台湾
 B班 タイ、インド、香港(両班とも大会出席)

申込先と期日
 8月31日迄に、申込用紙に御記入の上申込金5万円(渡航費に含まれます)を添えて、全日本仏教会国際局(東京都中央区築地3の15の1号本願寺内、電話542局2969・8666番)へ申込むこと。申込用紙は全日本仏教会にありますので御一報下さい。

主催 財団法人全日本仏教会
 東京都中央区築地3-15-1
 電話 (542) 2969・8666
 (541) 0313番



放下おどり

大会役員懇談会
 さる六月二十一日午後三時から、愛知県仏竹田会長、木村理事長、村瀬事務局長、精園部長を東京に迎え、全仏から黒田事務総長ほか事務総局全員が出席して懇談会が全仏においてひらかれた。
 黒田総長からこんどの愛知大会開催について、仏仏あげてのご労苦に対し全仏を代表してのあいさつ、竹田鉄仙会長から本大会の反省、苦心談、決議の実行についての話しがあり、今後の仏教運動のすすめ方についてのいろいろな意見を交換し、さらに竹田会長は感涙をもって別項のあいさつがあった。

県仏輪げさ 愛知県仏教会はこのたびの愛知大会を記念して県仏教会制定の「県仏輪げさ」をつくり、こんこの仏教行事には、必ずこれを着けることになった。

部会への構成と議事の経過・結果

第一回会

部会名 構成 議題

(仏教団体の組織強化、寺院の権益等の問題)

日時 六月三日午後一時三十分開会

会場 会場 議長運営委員 助言者 狩野獲麟 鈴木敏範 美濃部薫一 若山超関 古宇田亮宣 小野島元 杉山健城 坂野鉄城 市川良一 竹村賢祐 土方玄海 伊藤勝淳 黒田白純 阿部頭瑞 山口法英 早川大信

参加者 一、〇〇〇人

全仏を檀信徒を入れた組織にしよう

提案 愛知県仏教会 説明 精園 俊介

全仏は頭ばかりで手足のない集団であり、兵隊のいなす将校ばかりの集団である。わずか年一回の全日本仏教徒会議にしても、檀信徒は地元の一時的のかり集めで、大会が終わると檀信徒とあとの連絡はない。例えば日赤の事業を例にとると、社員分区分、支部組織や奉仕団などがあって、資金吸いあげの役割もはたしている。とにかく全仏は組織のなかに檀信徒を吸収し、大いに活用し、また資金集めをせよといいたい。この件については全仏の専門委員会が研究されたいと提案理由の説明があった。これについて静岡県仏の友田師より

- (1) 全仏を檀信徒を入れた組織にしよう。
- (2) 宗教法人立保育施設の権益を守ろう。
- (3) 全仏に仏教伝道機関を設置しよう。
- (4) 仏教政治同盟を全仏教徒のものにしよう。
- (5) 海外宗教施設の返還運動を起そう。
- (6) 万国博覧会仏教会館の設置に積極的な協力をしよう。

わが県仏では最近檀信徒を入れた組織を作っているが、ただいまの提案は大いに結構です。全仏はわが静岡県仏をサンプルとして実行して欲しい。と賛成した。埼玉県仏の北之内師より、ただいまの静岡県仏の発言は結構だが、現在の全仏は宗派、県仏、団体の組織で出来上っており主に宗派を中心として、全仏一宗派一寺院の構成であるので、宗派単位の全仏に檀信徒を入れるには無理があると思う、この件については全仏の機構を検討しなければならぬ。

と全仏の現在機構を説明、これについて助言者鈴木師より「全仏の中には組織専門委員会というのがありますので充分検討したいと思えます」と答え原案どおり可決した。

宗教法人立保育施設の権益を守ろう

提案 日本仏教保育会 説明 五島 宗宣 代理 松田 密 玄

現行法では宗教法人の保育施設(幼稚園、保育園)が公益事業の名において認可され、実施できることになっているにもかかわらず、宗教法人の幼稚園は学校法人に、保育園は社会福祉法人へと、法人設立促進指導が行われていることは宗教学者、全教団の注目を要するものと思考する。よって宗教法人(寺院)の保育事業が他の法人経営に移行を余儀なくされることのないよう主張することを全仏当局に要望したいと説明。これに対し参会者から幼児に対する宗教情操教育は人間形成上最も重要であるが、法治国のわが国である限り政治的解決をせねばならぬと発言があり、助言者狩野師よりこの問題は国の制度上いろいろ隘路があるし、特に専門的なことなので、全仏の専門委員会に諮って研究したいとの意見があり、結局提案者の要望は採択された。

全仏に仏教伝道機関を設置しよう

提案 神奈川県仏教会 説明 能登 有 兆

寺院も仏教諸団体が教化活動が中心であるのを承知しているがこれを推進し得ない現状である。特に全仏、県仏などはほかの事業は実施しているが一貫した教化施策はない。そこで全仏は一大財団を創設して、その利子をもってわかり易い仏書出版の印刷事業を開始すべきである。神奈川県仏では、すでに一億財団造

成のテストをやっているもので、わが県仏が成功したら全仏もぜひその線にそって実行して貰いたいと要望。これについて大阪府仏の北師から大変結構なことを提案せられ、われわれは全面的に賛成である。ぜひ全仏もこの財団の件を推進するようお願いすると述べお互に協力し合うことを申合せる形で可決。

仏教政治同盟を全仏教徒のものにしよう

提案 仏教政治同盟 説明 杉 本 良 智

全仏は創立当初の趣旨において「仏教徒は大同団結し世界平和に貢献しよう」また愛知大会のスローガンにおいても「光はすみずみまでの運動」をスローガンにしているが、これを最大限に実現するために仏教徒による政治力の結集を必要とする。特に私が申しあげたいのは、(一) 新興宗教は永遠に続くものである。

(二) 仏教政治同盟の考え方と皆さんの考え方をともにして語り合いたい。そこでこの(一)の新興宗教だが、戦後「信仰の自由」で既成仏教も新興宗教も同じスタートに立ち、いま既成仏教はその存続にあえており、その反対に新興宗教はますます前進している。恐ろしいのは一般国民の間に既成仏教は有害無能であるという観念が生れることである。いまこそ全仏教徒は立ちあがる時である。仏教興隆のために皆さんのお力により仏教政治同盟を育てていただきたいと述べた。ついで長野県仏の高阪師から皆さん、この仏政同の長い間の苦勞を



第二部会の提案理由説明

実のらせて欲しい。日本の国会が三編
依文で開会されるようにするために仏
政同に協力しよう
と賛成の意見があった。これについて参
加者から結構な趣旨だが、その仏政同の
政治性格、政治思想は如何、また近代仏
教研究会の中野師は「本日のこの席で配
布された仏政同の二種類の新聞を見ても
特定の政党を支持しているのか、仏政同は
今後なにをしようとするのか」と発言が
あった。助言者の狩野師から「仏政同の
政治性格、思想はわれわれ自からが考え
ねばならない。国の運命は昏んで考え
なければならぬ」と述べ提案は採択さ
れた。

海外宗教施設の返還運動を起そう

提案 真宗本願寺派、真宗

大谷派、浄土宗共同

説明 重 藤 廓 亮

すでに国際関係も平常化し第二次大戦

後二十年、海外各地にある宗教施設の返
還を求める運動を起してもよいのではな
いか。東西本願寺ならびに各宗でもこれ
らのことを検討している。たとえ建物は
なくても、土地はそのまま残っているの
で、将来布教活動ができるよう、その足
がかりをつかみたいと思うので、皆さん
の支持を得たい。と支持を求めたのに対
し、愛知県仏の菅原師より「この政治的
難問題に対し、おのれの財産を帰せとい
うのは、仏徒として好しくない」と反対
の意見を述べ、近代仏教研究会の中野師
も「かつてわれわれが戦前におかした悪
事に対し、われわれ日本の仏教徒は理解
していない」と発言。提案者は「戦争で
多くの人を殺したのは戦争屋がやったこ
とで、私は建物や土地は帰えらなくて
も、布教権などをつかめる足がかりを云
っているのです」と説明、さらに議長か
ら「私も中国に住んでいたので、提案者
の云わんとすることはわかる。海外の国
へお詫びするのであればその趣旨は通る
と思うので、当局は次回の仏教徒大会に
今日採択したことを発表して貰いたい」と
発言、全員賛成。

万国博覧会仏教館の設置に
積極的協力を

提案 ヤング・イースト社

説明 村 野 宣 忠

四年後の万国博に仏教館を建てる話し
を進めている。去年のニューヨークの
世界博覧会の宗教特設館を例にとり、第
一のキリスト教館、第二のフリーメーソ
ン館、第三のモルモン教館の内容を説明
し、またとない四年後のチャンスには
仏教館を設け、仏教のPRをしたいと提
案。これに対し大阪府仏の田所師は誰れ
が責任をもってやるのか、またその膨大
な経費はどうするかと提案者に質問。提
案者は「これは熱意如何んで出来ると思
います」と答え、当局から黒田総長が全

仏では四年後に備えて目下検討中です。
私は姫路で仏教館の一号館と二号館を見
たが、この程度なら全仏でも出来ると思
った。万国博の仏教館建設は、またとな

部会名

構成

議 題



(仏教文化活動、仏教の国際交流の問題)

日時	六月三日午後一 時三十分開会
会場	覚王山日泰寺
参加者	三五〇人
部会長	野 敬 重
部員	竹 中 素 仁 清水谷 孝 尚 別 所 弘 因 福 山 忍 裳
議事運 営委員	真溪義貫 摩尼清之 藤井真水 今井大彰 岡野貴美子 山田義雄 渡辺彰準 内藤潮邦 吉田秀光 早川道逸 平林曉祐 伊藤堅純 福井清俊
全仏当局	福井清俊
地 元	久我 順 永井海雲
議 題	(1) 仏教文化人の組織化をはか ろう。 (2) 北朝鮮遺骨収集促進運動に 仏教徒は率先協力しよう。 (3) 日本仏教徒は韓国仏教徒と 一層親善をはかろう。 (4) ベトナムの仏教運動を正確 に把握して国際交流をしよ う。 (5) ベトナム救援運動を全国に 展開し、文化交流を推進しよ う。 (6) われわれ仏教徒は日常、仏 教暦を絶えず使用し、仏教恢 弘に一段と努力しよう。

仏教文化人の組織化をはかろう

提案 福岡県仏教会

説明 二十二 鉄

わが国の指導階級に仏縁がうすいこと
は布教上の根本問題と思う。その結果、
仏教に対する理解が弱い。そのため仏教
団体が各種の文化活動を企画してもその
効果が徹底しない。この問題は教団とし
ても、各布教者としても大切であると思
う。この問題はわが国におけるヒューマ
ニズム啓蒙に関してもまた、仏教徒とし
て大切であると思う。この提案理由の
説明があったが、すでに全仏は昭和三十
八年から鈴木大拙博士を議長とする「日
本仏教文化会議」を設立し、仏教人口の
組織化と仏教文化を内外に昇揚すること

いよいよチャンスなので、今後全仏は検討
してみるつもりであると答え拍手のうち
に可決。

を目的として鋭意活躍中である。しかし
ながら一般に周知徹底する方法に多少遺
憾の点もあるので、この点今後一層留意
することを当局に要請することとし原案
採択。
北朝鮮遺骨収集促進運動に
仏教徒は率先協力しよう

提案 真宗大谷派

説明 美濃部薫一

終戦時、国難に殉じ、北朝鮮の地で死
没した約三万人の同胞の慰霊法要を現地
に渡航して営み、さらにその遺骨を収集
しようとするこの運動に対し、
一、全日本仏教徒会議の総意により、こ
の運動に協力する。

二、日本および北朝鮮の両国政府に、全日本仏徒会議の名をもって要望書を提出する。

三、全日本仏教会は、その使命に鑑み、この運動に全面的支持と積極的参加をする。

という提案理由説明があり、異議なく可決確定。

日本仏教徒は韓国仏教徒と一層親善をはからう

提案 国 柱 会
説明 田中 車一郎

日本仏教は、千数百年前韓国を経由して伝来した。仏教だけでなく上代史をひもとけば、わが国の文化北その他韓国に負うところのいかに大であったかを知ることができる。日韓両国は、今や新しい善隣友好の歴史を開くことになったが、この機会に日本国民は韓国からの仏教伝来の恩を謝し、何らかの意志表示を行なうことは、両国親善のため、はたまた両国仏教徒のために意義深いものがあると思えるものである。その具体的方法は百済国の旧都扶余に、全日本仏教徒の浄志を結集して「仏教渡来謝恩之碑」を建立することとしたい。なおこれの実行については、全宗派諸団体はもとより全仏教徒の総意を結集する必要がある。そのため全日本仏教会内に対策委員会を設けてはどうかとの提案説明があった。約一時間わたる慎重審議の結果議長において、参会者約三百五十名に採否を諮ったところ、賛成十六、反対三十五で否決された。三百余人の参会者はなんらの意志表示がなかった。

なお、これについて四日の総会第二日において、提案者は否決に異議を申し立て、この件については全仏当局に一任し、提案の要望にそうよう努力することになった

ベトナムの仏教運動を正確に把握して国際交流をしよう

提案 近代仏教研究会
説明 壬 生 照 順

ベトナム問題は、その民族の大部分が仏教徒であるだけにわが国仏教徒とも深い関係がある。正しいベトナム仏教の理解の上に立った支援こそ必要である。ベトナム仏教徒の不惜身命の愛国運動や民族自決の立場を理解し、その上に立て、日越仏教徒の国際交流を進めることが急務である。との提案理由説明があり、原案可決。

ベトナム救済運動を全国に展開し文化交流を促進しよう

提案 長野県仏教会
説明 黒 柳 祖 道

さきの第十三回長野大会でベトナム救済の決議をし、長野県下仏教五団体でベトナム救済仏教連絡協議会を発足、全県下に署名募金運動を起した。私はベトナム戦争に人類の世界的問題の凝結を感じ、人類絶滅の危機をさえらんでいるとさと思う。このとき仏教徒は主義主張にとらわれず、慈悲忍辱の救済の願行によって真の平和への道を開かんとするものである。これは県下に多大の反響を呼び、現在五十万円の浄財が集まっている。先方の要請もあり近く代表を派遣するが、今後も物心両面の援助と文化交流が望まれる。各県に募金運動を展開し、ベトナム諸都市仏教団体と姉妹関係を結び、親密な関係と救済を行いたい、と提案理由説明があった。すでに全仏はさる四月八日東京日比谷野外音楽堂で、ベトナム救済運動総決起大会を開いて実動に入っていることからしても、この運動を一層推進することを決議した。

提案 三重県仏教会
説明 加 藤 竜 雲

仏教徒はキリスト教を排斥する意味でなく、その信奉する宗教に基く啓蒙を用いるが至当である。との提案理由の説明があったが、この問題は非常に有効である

第三部会

(仏教青年活動の問題)

日時	六月三日午後一時三十分開会
会場	愛知学院大歯学部講堂
参加者	三〇〇人
部会長	塚原 徳 応
助言者	伊藤脩己 石上慈敬
部員	久保田 精 順 黒田 竜 雄 船口 暉 子 菱山 照 暢
助言者	木全かず
部員	古屋道雄 岸本昭典 山田一真 増田貞円 岩堀至道 近藤玄蔵 小林洞竜 大光明真雄 成田芳髓 安井溪洲 日野文化局長 伊東文化部長 小瀬川主事

仏教青年運動の強化をはからう

提案 全日本仏教青年会
説明 杉 谷 和 男

仏教青年会の創立の歴史より説き起しこのような長い歴史があるにもかかわらず、成果のかんばしくないのは何故原因感を持っているか。現代青年は孤立し無力感を持っていて。現代青年の発展の隘路はまず仏教運動指導理念の未確立、後継者養成の問題、財政の確立、地域社会への浸透、そのほか大学および各宗派などの仏教の組織確立などのことに要約されると思う。青年自からの手で指導理念を確立し、各宗派仏教の活性化と、それと共通の運動点を見つけてともに歩みを進めねばならぬと思うと述べ、これに對

議題

- (1) 仏教青年運動の強化をはからう。
- (2) 家庭教育と宗教教育について。
- (3) 青少年に宗教心を涵養する方法について。
- (4) 青少年の教化活動の基盤としての戒律運動を展開しよう。

して岡山県仏の三宅師はNHKの聖典講座に出た自分の態度を批擲し、全日仏が親となって子を育てる立場を持つことが大切であり、そして学識経験者の意見を加味して指導して行かねばならぬと補足した。また東京足立区仏教の小室祐充師は杉谷師の提案は立派である。なぜ今日までの全日仏の中で討論し合い研究されていなかっただのか、指導理念の確立が中心と云うがそれは自分達の中から作り上げたものでなくてはならない。と意見を述べ全日仏の山本スギ氏は「提案者の説明を聞いたが、仏教に對してどうしたら良いかということは、まず仏教運動は何か、誰がするのかと云うことと常に求道者の立場をもって深く深く掘り下げた研究しなくてはならぬ。」また融通念仏宗の滝野弘澄師は「まず実践面を掘り

下げて、これを見出し信念をもって実行する心を持ってはこれは自然と行いとなる。寺の青年よ、まず自己を正せ、朝四時に起きて動行せよ、体操をせよ、早起会を町内に作れと主張。これらの意見に対して助言者の石上慈敬師は全日仏青の歴史と、目的ビジョンを具体化するべく努力したい、大学仏青、各宗派仏青など協力を求めたい。」と述べ続いて全日野文化局長は、

提案理由の説明および各位のこれに対するご意見を拝聴したが、全日仏青の今日の状態は決して満足すべきものではない、現代社会における青少年問題はいろいろの面から重視されておるところであり仏教界においてもまた然りと思う。

全仏文化局はこれに早くから着目し、本年四月に新しく青少年専門委員会と云うものを特設しまして、仏青を始めとして一般青少年問題も処理して行きたいと思っている。この委員各位は、各方面のすぐれた経験者をもって組織されておるので各位の要望に答えられると思う。

と答えた。神奈川県の阪口祐瑞師は、御意見を聞いたが熱情をこめてやること云う気持を持つ必要がある。仏青運動として日曜学校を開くと云うことが大切と思う。との意見や積極性とともに感謝の気持ちを忘るるの発言、天台仏青の高宮師のまず青年はお互い各自の人格をみがくことが第一で第二には全日仏の絶大な応援を得て、青少年運動の礎石となるよう努力せねばならぬと述べ提案どおり可決。

家庭教育と宗教教育について

提案 全日日本仏教婦人連盟
説明 野 上 幸

人作りについては宗教教育が欠くべからざるものである。私は幼児教育にたずさわってあるものであるが、その経験か

らおして如何に家庭における宗教教育が必要であるかを痛切に感ずる。母親の影響は大きい、子供たちの行為は親の行為の全てである。名古屋市は家康の生誕地であるが、この家康をして大ならしめたものは信仰心によるものである。各人は家庭内に信仰を生みつける努力がたいせつである、と述べ可決。

青少年に宗教心を涵養する方法について

提案 大阪府仏教会
説明 水尾 頼

青少年のうちには、一般青少年と施設青少年、離郷青少年の三つにわけることができる。一般青少年に対する宗教心の涵養はまず自坊の子弟をその指導者とせよ、第二の施設青少年と云うのはここでは養護施設に収容されている青少年を指すのであって重要な対象である。第三の離郷青少年は、感じ易い青少年でありかつまた都会は大きな誘惑のあるところであるからまず宗教家が率先して起ちあがらねばならぬ。これは店主を説得して法話の会を持つというようにするのがよいと思う。」と述べ、静岡県の堀田良謙師は宗教教育は学校でもまた家庭でもなかなか云うに易くして行うは難いであるが、寺院での日曜学校の経営を通じて仏さまに参り合掌すると云うような環境をつくり仏性を伸ばすようにしなくてはならぬ。つぎに離郷子弟は自坊の檀信徒の子弟の離郷はわかるはずであるから住職はこれを掌握しておかねばならぬい、と述べた。つぎに熱田市の亀井山門徒桑木玉枝氏は子弟教育の困難なる現状を自家の子弟に照して報告。愛知県仏の牧師は青少年や門信徒と共に歩むと云う自覚が大切だと説き全日仏の友広氏は家庭教育は親の責任であると同様に、宗教教育は僧侶の責任であるとし、助言者の木全かず氏はまずお互いに実践することが大切と述べ同じく、助言者の内山堯

修師は、ボーイスカウトなどの利用と静岡の堀田氏の説のとおり寺の檀信徒の離郷は寺院住職が把握できると信ずる。静岡県の宇野師は

利害関係をつかむと人間は真剣になる、そうした要点的把握も大切である。この問題についてつぎの大会では提案でなく実践報告であって欲しいと動議提出。この動議を塚原部会長から諮って全員拍手で動議成立、提案者の提案ともに可決。

青少年の教化活動の基盤としての戒律運動を展開しよう

提案 融通念仏宗
説明 滝野 弘澄

青少年の非行化が叫ばれているが、青年に生き甲斐と正しさを見失わなわしてゐるのはいったい誰であらうか。子を正す前にまず親から正して行かねばならない。この意味からして戒律運動の必要があり、そしてその戒律運動は子に与えるのではなく、親自身大人自身にこれを要

請するものである。戒律生活は幸福生活であり、日本を興す第一は戒律生活実践にある。むづかしい戒律をいかに現代に生かすかなかなか難かしいことというもあるが、昔の聖人賢者のされたことが同じ人間であるわれわれにできぬわけはない、しかも教導職にある僧侶においておやである。と提案があり、これに対して融通念仏宗と仏青の代表から教育は学校で、教化は家庭の親とおとなの責任である、宗教的理念を充実し、そして仏教的戒律に生きなければならぬ、いまの提案に大賛成である。と賛成意見が述べられ東京天台仏青の筒井泰道師から「町に溢れるエログロ報誌、いかがわしい映画の看板、これらも追放する社会浄化にも留意して欲しい」の意見。続いて助言者の内山堯修師から「戒は生活のけじめであり、親自身から正し己れを知り明らかにしなくてはならない。と述べ全員賛成、総会の席上で出席者全員の反省を促すことになった。



部会名 構成

(仏教婦人、檀信徒活動の問題)

議題

部会長 河合智海 山口貴美子 ⑩ 仏教徒はアイバンク運動に積極的に協力しよう。

助言者 鈴木快聖 西沢はる ⑪ 「光はすみずみまで運動」の展開をしよう。

議事運 林 靈法 牧野ます ⑫ 仏教婦人活動の効果的方策について。

委員長 内山堯修 平沼とみ

参加者 高山宥進 原 浩
伊藤いそ 桑山春山
稲田総務局長 柳組織
部長 宇佐美諦練 神野賢隆

二五〇〇人

愛知県立体育館

会場

時三十分開会

六月三日午後一

日時

日

時

分

開

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

全仏当局

野賢隆

仏教徒はアイバンク運動に積極的に協力しよう

提案 西山浄土宗
説明 橋本 随 暢

仏教の文化活動の一環として、仏教徒はアイバンクに協力したい。いまわが国には目のみえない人が十八万人あり、そのうち角膜障害とみられるものは三万五千人で、うち一万五千人は、角膜移植で開眼が可能であるといわれている。わが国の年間死亡者は百五十万人といふから、年三百万個の眼球が角膜移植に活用されることなく葬り去られていくことになる。目のみえない人びとに光りをと、すでにわが国では、昭和三十三年に「角膜移植に関する法律を施行」し、同三十八年以來各地にアイバンクが設立され、眼を預かり、保存、提供のあつせんが始められている。が、完全実施にはなお多くの隘路があるという。その一つに人間の感情として、眼球の提供の登録に抵抗を感じたり、また仮りに本人が登録して

おいても、遺族がその摘出をいやがるということがあげられ、仏教国日本としてきわめて遺憾な現状である。目は心の窓、光りは心の養いである。アイ・バンクへの協力では、仏教徒にふさわしい人間愛の実践である。とくに寺院や仏教諸団体が啓蒙し、提供するならば、その意義は単に一万五千人の肉眼を開くだけに止まらず、人びとの心に人間愛の眼を開き、平和に貢献することと信じる。これを組織的に実践する方途如何、と説明があり、更に栗本先生の助言もあり、質疑なからそのまま可決になったが、後に提案者からその具体的方策として、
一、全日本仏教会が愛知大会の名において、厚生省に具体的方策を強く打出させるために、促進運動を強くやらう。
二、各寺院の本堂にアイ・バンク運動のポスターを配布する。
三、住職、寺族は地元の保健所を通じて、積極的に登録をするように働きかける。
との説明があり、名古屋市の江熊夫人

から水野愛知用水会長の作っていられるアイ・バンク運動に愛知の方々には積極的に協力して欲しい、との要望があり、アイ・バンク運動に積極的に協力することを万場一致可決された。

「光はずみずみまで運動」の展開をしよう

提案 愛知県仏教会
説明 藤井 香 嶺

提案理由の説明があり助言者林師は、一、寺院を社会福祉運動の道場として、活動すべきである。
二、各年各層、物心両面にわたってこの運動を展開すべきである。
特に老令者には信仰の精神に徹し、生きることに望みを持つように運動すべきである、と説き「光はずみずみまで」運動の展開をし、この大会の名において愛知県内の社会福祉施設を慰問することを異議なく万場一致可決。

仏教婦人活動の効果的方策について

提案 曹洞宗
説明 大川 玄 道
提案理由つぎのとおり
(一) 寺院に各種婦人団体の連絡協議会をもつ。
(二) 感謝に起き、感謝に眠るムードを作る。
(三) 寺を婦人教養の道場として、手を取れ合って協力をする。
これに対して助言者の牧野さんは、「現在には婦人が変わったと言われ、男と女が入れ変わったと言われている。これを反省して考えて見たい」と助言、更に助言者栗本師より、「数多い婦人運動の中で、仏教徒としての精神になり切って婦人活動をしていきたい。更に幼児のしつけについて幼児の精神教育を大切にしたい」と助言、全仏当局は専門委員会において深く研究し具体的方策を立てることとして可決した。



宣言決議を可決

主催側へ感謝の決議

総会第二日の四日は、愛知学院講堂で午前九時から開会、司会は前日に引続き全仏組織部長柳了堅師。一同礼拝ののち、各部長から部会における議事の経過および結果について報告、質疑応答、討論があつて概ね部会長報告どおり原案を可決した。

総会第二日の四日は、愛知学院講堂で午前九時から開会、司会は前日に引続き全仏組織部長柳了堅師。一同礼拝ののち、各部長から部会における議事の経過および結果について報告、質疑応答、討論があつて概ね部会長報告どおり原案を可決した。



全仏副会長秋山祐雅師（智精院能化）の導師で三帰依文

可決、これで総会の全日程をおわり、議長代表として竹田鉄仙師が総会終了のあいさつを述べた。

閉会式

引続き午前十一時から同講堂で閉会式が始った。まず平林国際局長のあいさつ、秋山師の導師で三帰依文、愛知県仏の木村理事長は地元の大役職員を代表してあいさつ、狩野獲麟師から「次回の仏教大会は広島で開催したい」と要望提案、全員一致で支持、栃木県仏の郷雲巖師は参加者一同を代表して主催側に謝辞を述べ、高階管長の発声で万才三唱、日野全仏文化局長閉会のあいさつで閉会式を終え散会。参加者は小雨煙るなかを希望コースの観光に出発した。



戦後の混乱の、ようやくに治まるにつれ、物心ともに安定化の世相のもと、いまや仏教は、満ちよせる潮の勢いで、復興隆運に向っている。

三千年の法統をうけつぐわれら仏教徒は、わが国民の精神を、救い導き、作興するものは、仏教のほかにならないとの信念を、いよいよ固め、迷うことなく、ためらうことなく、わが正覚を成就せんがために、仏法の本義に徹しなければならぬ。

このときあたり、今次大会のスローガンは、「仏教徒の大同団結による世界平和への貢献」と「光はすみずみまでの運動の強力な展開の二つの念願を高らかに掲げている。

われわれは、み仏の慈悲の光明を、あまねく弘布して、個人の平安と人類の和合のため、身を挺して精進することを決意し、この大理想の達成を、確乎として、中外に誓うものである。

昭和四十一年六月四日
第十四回全日本仏教徒会議
愛 知 大 会



この大会に会同結集した二万の仏教徒は、二日間にわたる討議を経て、つぎのことを決議した。

一、僧俗一体化の推進と、それによる「全一仏教」の完成は、われらの当面する努力目標である。僧侶は寺院生活に漫然と安住し、在家は慣習的に寺院につながつている現状は、速やかに打破されねばならぬ。われらは常に街頭に、そして



全日本社会教化者愛知大会

大衆のなかにあらねばならぬことを、ここに深く反省し自覚した。

一、仏教徒の、もったもた大切で根本的な姿勢は、仏恩と慈悲心を具現実践し身現することにある。迷妄と苦惱の闇に泣くものために、われらは捨て身になつて働くべきであつて、徒らに観念の世界に低回してはならない。勇気ある実行者でありたい。

一、すぐる大戦に倒れ、いまなお仏土にいたり得ぬ同胞のため、また戦火の業苦に呻えぐべトナムの仏徒のため、われらは力の限りをつくして、大乘弘誓の船をこぎ進めねばならぬ。

一、婦人や青少年をはじめ、あらゆる

主催者に対する感謝決議案上程

このたびの第十四回全日本仏教徒会議愛知大会が、大成功のうちに幕を閉じるにあたり、私たち参加者一同のものは、お世辞抜きほんとうに、心からなる感謝と敬意を、主催当局各位に捧げるものであります。

全仏はじめ、愛知県仏のみなさん、とりわけ名古屋市内および、竹田会長先生、地元事務局長とその協力者のみなさん、ほんとうにありがとうございました。さぞかしお骨折りであったこととお察しいたします。ご苦労さまでございました。

全仏大会は、回を重ねること過去十三回、そのたびに甲乙優劣をつけ難い盛況を収めたのでありますが、このたびの愛知大会は、その質において、またそのスケールにおいて、前古未曾有、全く驚異的な盛会であつたのであります。この成功をかち得た所以のものは、これひとえに主催当局の熱意と真剣な御努力の賜ものにほかならないのであります。

さらに思いを致すならば、仏都名古屋として、また中部経済圏の王者愛知県として、物



地元役員代表のあいさつ

主催者に対する感謝決議

このたびの第十四回全日本仏教徒会議愛知大会が、大成功のうちに幕を閉じるにあたり、私たち参加者一同のものは、お世辞抜きほんとうに、心からなる感謝と敬意を、主催当局各位に捧げるものであります。

の運動の中核であるところの、全仏組織の拡充が喫緊の機務である。

みぎ決議する。

昭和四十一年六月四日
第十四回全日本仏教徒会議
愛 知 大 会

値い難きに過つたこの大歓喜は、昔日に倍するところの、わが国の仏法大興隆のきざしを、この地東海の一角において顕現したというべきでありまして、われ

愛知大会を終えて

今後到大課題

事務総長 黒田 白 純



黒田事務総長

ら仏徒は、今次大会を大きな区切りとして、正法救国に不退転の誓願をいよいよ固めるものであります。ここに溢れる感謝と感激をこの粗末なことばに托して大会成果を讃えるときともに、主催者各位の御健康と

御精進を心から祈念するものであります。

昭和四十一年六月四日
第十四回全日本仏教徒会議

愛知大会参加者一同

ある。

大会を顧みて想うことは、大動員を成し遂げた愛知県仏教会の努力である。竹田会長はじめ各役員諸師の御熱意もさることながら、この熱意にこたえて実働に踏み切った、各寺院の住職、総代の協力態勢は、誠に得難い珍宝と云はねばならぬ。会期二日間のこの行事のために費された総予算は、全仏の年間予算をはるかに上廻るもので、その勸財の成否は直ちに大会の動向を左右するものであって、実は、能、所、円転の姿でもあった。

宗我を捨て、法輪の下に結集した二万の仏教徒の、その組織づくりは、まさに今後の大課題である。また、本大会に採択された案件の執行については内外関係諸師の本大会に寄せられたなみなみならぬ御好意に對しても、鋭意その具現化に精進するのみである。

ありがとうございます
ございました

組織局長 伊藤 勝 淳

就任早々の私にとって、最初にし

てかつ最大の行事であった全日本仏



第十三回全日本仏教婦人愛知大会

新本堂・この感激

三千の同信諸姉結集

……船口暉子記……

開かれるにあたり、大谷智子裏方を会長に推戴するわが仏婦が、東本願寺王国と自他共に許す名古屋東別院で、しかも新本堂開設の第一声として、全国大会の門をここに開かせていただく感激の深さは、到底筆舌にはつくせないものであった。

午後一時の開会前、すでに三千を超え参集者が堂外廻廊にまで満ち溢れる盛況であった。

第一部会では特に航空事故犠牲者の霊を慰め、また今年新盆を迎える赤松常子、川嶋貞子両女史、番清禪妙尼など会員物故者諸霊位の追悼を含めて、竹中素仁輪番お導師のもとに同門僧侶十数師で厳粛な法要が営まれた。

大谷会長、一条智光副会長をはじめ高階管長、椎尾法主、全日仏役職諸先師、地元竹田県仏会長ほか、県知事、市長、

昭和二十九年十月六日全日本仏教徒会議永平寺大会のとき、第四婦人部会で議長に選ばれた山本杉女史が、全国各宗の婦人代表七十余名を前に「仏婦に与えられた使命は大きくしかも限りがない。だが、現在までその組織がなかったため統一ある強力な動きを展開することができなかった。いまこそ強力な組織を結成すべきときだ」とまごころこめて述べれば、賛成の熱弁がこれに呼応し、満場一致で全日仏婦の結成が可決され、同時に全日仏への加盟も決議された。

かくて十三年、仏教会はもとより、財界、政界などの加護もあり、堅実な歩みを経て来た今日の仏婦に對して、どこからともなく時を同じゅうして組織法人化の必要性が自然の声として湧き上ってきたのである。

時に全日本仏教徒会議が仏都名古屋で

愛知大会を終えて



伊藤組織局長

教徒会議愛知大会を無事に了えて、なにか虚脱状態に落ち入ったような日が、しばらく続いた。ましていわんや長い間、実際に仕事にたづさわった現地の方がたは、さぞかし安心感と解放感からくる疲労に襲はれておられることとお察ししている。

全く全仏始まって以来の、マンモス大会であっただけに、はたして企画通りに、スムーズにゆくかどうかということとは誰しもの危惧するところである。

ろであったと思う。

しかるに実に正確に、予定通りに進行を見た、ということはひとつの驚きであり、企画進行の成功といわねばならない。殊に今回は体育館の真中に舞台を作り、四方正面という特殊の装置であり、舞台上には議長、司会者の外には誰も上らせないために、氏名を呼ばれた者はいっさい舞台上に降り降りしなければならず、これが結構時間を喰うわけである。しかし予定どおり行はれたことは、まことに結構なことであつた。

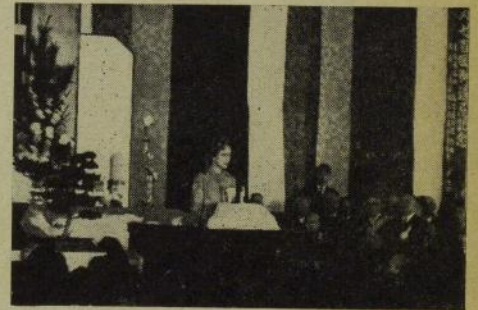
今回、この体育館に、立錐の余地のない大会衆を集め得た、この成功の理由はいろいろあるであらう。曰く事務局が愛知学院大学内にあり委員長が学長であり、また事務局長が県庁に事務所を持っており、役員の結果、その他学校が全校を挙げてこ

れに協力をしたなど、いろいろあるであらうが、なんととっても仏教王国中京の底力を見逃すわけにはいかないであらう。

既成教団の一番の弱点は、動員力の欠除にあるといわれる。宗派内の会合においてさえ、なかなか思うようにいかないのに、仏教会が動員することとはほんとうにむづかしいことである。然るに事実は、はっきりとそれが杞憂であることを示してくれている。

多勢の人間を集めてなんの意味があるのかと云う人がある。このような大会においては、ひとつの目的を持った人が、一人でも多く一堂に集るといふことに大きな意義があると思う。ただし単に集りつばなしでは駄目であることは勿論である。またこのような大きな大会を開催をしていったい後に何が残るのかということも聞く。しかし私はこのような大会はひとつの「のろし」であると思う。これを各市の大会に、町村の大会にまで引き下げ、代表者の集りではなく、末端の個の集りにまでもって行ってこそ、その効果は現れるものと思う。今日組織を持たないものは時代にとり残されていくことを銘記すべきである。

人或はこの大会の運営その他について、いろいろと批判をされることがあるかも知れない。しかし、私はその意見を尊重はするけれども、人間の力の限界を訴え、現地の方がたの糧食を忘れてこの九月月に涉る努力に対しては、ただただ感謝の言葉しかないのである。竹田委員長、木村副委員長、村瀬事務局長、その他役員のかたがた、御寺院の方がた、ほんとうに御苦勞さまでした。有難うございました。



会長大谷智子裏方のおことば

県市会議員、国会議員などまことにけんらんたる来賓のお顔ぶれで、それぞれに御焼香、御挨拶をいただく豪華さであった。つづいて第二部総会は対面所に移って開かれ会長、副会長御臨席のもと、山本理事議長長席に着き、例により加盟代表の報告後、明日の全仏会議に提出の「家庭教育と宗宗教教育について」を野上幸姉が説明全員賛成、最後に緊急動議でアジア救済協会支援のカンパを行い、淨財三四、一〇八円が集った。

五時半からの晩餐会もこれまで予定人員超過で、せっかく御来駕賜わった多数の来賓および会員の方がたに非常に申し訳ないことになったが、これも嬉しい悲鳴として反省し、御寛恕を願う次第である。

理想達成に邁進

愛知県仏教会長 竹田鉄仙



竹田鉄仙大会委員長

園)の慰問教化を致し、「光はすみずみまで」社会教化実動面の一端の責めを果し、仏陀の慈光に能所共に感謝し、本大会を記念致しました。

仏徒としての信念、願くはせめて年に一度は斯く大会を持ちたいと、念願するの余り、将来斯くあらしむべく、全国の皆様にお願ひ申します。

- (1) 全仏大会に仏教徒が一人でも多く参加し、団結して行う仏徳讃仰の会を持ちましょう。
- (2) 六千万の檀信徒を糾合し得る組織を作りましょう。
- (3) 檀信徒と共に社会教化活動の方策を盤をうち樹て前進しましょう。

私共は会員の勧募に大会の運営に、大きな苦慮と尊い試練を得ました。斯く訴えることによつて、理想の実現を期し、一層と信心を深く致すものであります。

仏教徒二万の御参会、第十四回全仏大会を修め得ましたことを、県下一同難値難遇の盛典に、今更ながら感激を新たに致した次第であります。あの総会の席上満堂の拍手をもって御賛同を得まして、精神薄弱児施設(県立三好園)衆善会乳児園、養護施設(慈友会学園)肢体不自由児施設(県立第一・第二両青い鳥学



アンコールワットの遺跡

世界仏教徒会議 タイのチェンマイ市で

エンマイ市で十一月七日から十一日にかけて開催されることに決定した。

WFB世界本部長ブー・ンピスマイ・テイ・スクル妃殿下からは、すでに暫定的な日程表が左のとおり送られて来ている。なお大会のテ

パトロン・各国元首等のメッセージ披露。

十一月八日(火) (午前九時より同十一時三十分) パンチャ・シーラ読誦・WFBパトロン・各国元首等のメッセージ披露(午後二時より同五時) WFB会長

各種報告書提出(午後二時より同五時) 各種委員会開催(午後八時三十分より同十時) 仏教討論会または講演

十一月十日(木) (午前九時より同十一時三十分)

タイのチェンマイ市で

一マは「仏教は人類に平和と調和を増進しよう」と云うことに決定している。

十一月七日(月) (午後四時から同六時三十分) パンチャ・シーラ(五戒文) 読誦 WFB会長の報告・開会の辞・謝辞およびWFB

挨拶と準備理事会の報告・各WFBセンターより、過去の大会決議事項の実践に基づき報告書提出(午後八時三十分より同十時) 仏教討論会または講演

十一月九日(水) (午前九時より同十一時三十分)

各種委員会開催(午後二時より同五時) 各種委員会開催(午後八時三十分より同十時) 仏教講演または討論会

十一月十一日(金) (午前九時より同十一時) 各種

委員会委員長よりの報告と決議案の採否を諮る。その他(午後二時より同五時まで) WFB会長による閉会の辞・贈呈品の交換。

なお全仏では、この歴史的な国際仏教徒会議に多数の代表を送ることを検討しているが、その機会を利用して別掲のようにカンボジアのアンコールワット視察班(A班)と、印度四大仏跡巡拝班(B班)をそれぞれ計画している。

詳細は全仏国際局(東京都中央区築地三の一五の一)本願寺内、電話五四二局二九六九、八六六番)へ

全青協の運動

仏教界が推進する青少年教化

五月二十七日青少年育成運動国民会議が結成され、国を挙げて青少年育成のため努力することになったが、わが全仏もこれに参加し協力することになり、各部会にもそれぞれ適任者を送っていることは既報のとおりである。

谷光照西本願寺門主)である。

いままでは埼玉・静岡・富山・石川・滋賀・京都・広島七府県をモデル地区として、主として日曜学校運動を推進して来たが、大阪・岡山・鳥取等にも組織ができ、全国各地に約六千人の正会員(僧侶)および一般会員を擁し、子どもたちのために地道な運動を展開している。各地区で県仏教会で協力している。

この会はマスコミの巨星

この問題は全仏教界の規模で、すでに四年前から専門にとりくんでいるのが全青協(財団法人全国青少年教化協議会・東京都文京区大塚五一四〇一八・会長大

正力松太郎氏の提唱によって、仏教界が総力を挙げて設立されたものであり、マスとスピードの現代に対処するため、新聞やテレビと密接に協力し合っている。運動としてではなく、大きな構想のもとに青少年教化の効果をあげようとしている。

事業面では、指導者の養成と教材の刊行に重点をおいているが、とくに家庭教育の面にも注意が払われて



いる。

毎月一回機関誌「おしえ泉児童教案」を発行し、つねに新しい教化のあり方を研究しているが、その基本理念は、苦心の作である「仏教の人間像」であり、それに基づく児童教本「ほとけさまのおしえ」は広く仏教の日曜学校において用いられている。

その基本理念は「わたしたちのねがい」として六項目にまとめられ、全仏刊行の「仏教徒の人間に像」も集録されている。

昨年十一月設立三周年を期して、広く大衆に呼びかけるため「若い人を育てる運動」をスタートした。

そのメンバーは、レギュラー、スペシャル、パーティー、ハンサム、オノラリィの五つに分れ、相互協議の上、メンバー周辺の一般青少年の健全育成の指導、家庭内での情操教育の徹底、世論の喚起、出版活動の充実による青少年の啓発指導等を行なうことになっている。(写真は石川県会場風景)

おしやんとモヨオシと催し

仏教文化会議

京都で仏教と教育問題討議

昭和四十一年度の文化局事業計画のひとつである仏教文化会議はかねて準備中のところさる六月十八日(土曜)午後一時より大谷大学図書館講堂で第一部、同大図書館講堂で第二部、同大会議室で第三部、同食堂における懇親会に約七十名の各大学教授参集、午後七時まで熱心に討議をせられ盛會裡に終った。本年度の議題はさきに発表されたとおり「仏教と教育」についてであったが、本会議では第一部に仏教文化会議副議長であり京都大学名誉教授の羽溪了諦文学博士の「仏教教育の理念と方

法と云う約五十分はわたる講演を頂き、第二部会ではこの講演を中心としてのシンポジウムに入り日本の教育における仏教の役割」これをわけて、(一)学校教育と仏教、(二)社会教育と仏教、(三)家庭教育と仏教について熱心なる討議があった。羽溪了諦師の講演内容はたまたま師が、昭和二十一年十一月に新憲法が發布され、内閣教育刷新委員会が設置されて、教育基本法の制定をはじめ、わが国教育の全般にわたる広汎な審議がされたうち教育と宗教との関係を扱う第十三特別委員会、師が委員長として審議が進められ、その特別委員会報告書は第七十一、七十二回総会で採択、内閣総理大臣に答申された。師はこの原案の根本理念を中心として教育者の欠くことのできぬものを七知法とし、これを守り得ぬものは教育者でない」と痛烈な論法によって説かれた。なお本年度各会議の紀要は本年十二月末までに配布の予定である。

檀原郡仏(静岡)檀信徒代表会議

静岡県仏では檀信徒の組織化を強力にすすめているが、同県檀原郡仏教(会長山下天山師)では、八月十九日午前九時より、檀原町役場講堂で午前中は代表

者大会をひらき、午後から記念講演会にうつり、駒沢大学総長山田雲林博士の指導講演がある。当日は各宗寺院檀信徒代表約八百五十名が出席することになっており、盛會が予想される。全仏からも祝辞をおくる。

仏青の夏季結集

全日本仏教青年会(石上慈敬理事長)では、このほど理事會を開き第十回全日仏青夏季結集について協議した。

同結集は、八月二十六日から二十八日までの三日間、群馬県水上観光ホテルで、地元の群馬仏青連の協力を得て行われ、大谷光熙、池坊専永正副全日仏青會長出席のもとに、全日仏青の財政問題、仏青指導理念、組織拡充の問題などの話し合いと、講師に今東光中尊寺貫主、評論家大森実の両名を予定しており、今後の全日仏青の活動が注目される。これは、さきに全仏の第十四回全日本仏教徒會議愛知大会青年部会で杉谷和男氏(全日仏青)提案の「仏教青年運動の強化をはかる」との議案の根本問題の解決にのりだして行くものようである。

全仏教保育大会

日本仏教保育協會(理事長・古屋道雄)では恒例の第九回全国仏教保育大会を八月二十七日二十八日の両

日、文京公会堂ならびに護国寺で開催する。今回の主なるテーマは「正業精進のよき社会人を作る保育」で、二十七日は開会式と研究発表、東京学芸大学の高坂正顕氏の記念講演があり、午後からアトラクションとして二月座の「釈迦」が公演され、二日目は十五の分科會にわかれ、仏教保育の実践展開を中心に討議する。なお本年の特色はことし日本からのインド仏跡参拝が機縁となつて、インドから四名の保育代表者が大会に参加することになり、日本での保育はアメリカのフレール方式が中心であるが、インドのモンテソリー方式の理論と体験発表を各分科分に盛込まれるようである。

静岡県仏 静岡県仏教會役員總會(会長松村寿頭師)では、六月二十二日午前十時から、静岡市蓮永寺で県仏教會役員總會が開催された。全仏から黒田事務総長、柳組織部長が出席した。

神奈川県 神奈川県仏教會(会長高橋隆夫師)では五月二十五日午後三時より川崎大師平間寺で昭和四十一年度役員總會が開かれ、全仏から副総務部長が出席した。

教師の研修大会 全国教師連盟東京矯正

管区教師研修大会が、五月十二三の両日栃木県宇都宮市の栃木會館および鬼怒川温泉において二百名近くの管内教師が参集して、

東 甲信越 ブロック會議

全日本仏教會では、四月二十四日の東海地区ブロック會議に引つづき、五月十一日午後一時から群馬県の当番で水上温泉松の井ホテルで各都県仏の代表五十余名の参加を得て関東甲信越ブロック會議が盛大に催された。

まず柳組織部長の司會により伊藤組織局長のあいさつ、全員の自己紹介、主催者を代表して黒田事務総長があいさつ、群馬県仏会長松浦師を議長に推せん。議事にうつり、全仏の四十一年度各局事業計画を総務、組織、國際、文化の各局長より説明があり、つづいて愛知大会、ベトナム救援活動について協議し、万場一致で各県仏で運動を開始するにたり、さらに東京、神奈川、千葉、埼玉、長野、群馬の各都県仏の活動報告があり、次回開催県を栃木県仏と決定した。

なお夜は懇親會にうつり、地域仏教會をどうして強化するかをテーマに深夜まで有意義に話しあい、多大の成果をおさめ十二日午前十時散會した。当日の出

当面的問題について種々研修協議が行われた。全国大会は、今秋名古屋で開かれることになっている。

席者つぎのとおり (東京) 来馬道断 古宇田亮宣 古川海洋 北川有光 神野真一

(神奈川) 峯堅雅 能登有兆 西郊亮瑞 鈴木敏範 佐藤慶善 横山鏡輝 具山宣泰 大野横信 丸山日雄 小崎泰雄 柳下隆侃 (埼玉) 倉持秀峰

(長野) 半田孝海 宮坂結宗 半田孝淳 萩原保春 (千葉) 熊野竜夫 和光正安 中村勝和 大久保滋暢

(群馬) 松浦亮一 山内讓孝 過外一雄 桜井良弘 東秀和 巖良宣 田中賢順 神宮有寛 吉水多順 深美福道 丸岡興舜 福田仙英 荒井晴美 綿貫正雄 酒井満成 白石賢海 山田周明 箱守博英 工藤正信

(全仏) 黒田白純 伊藤勝淳 平林睦祐 日野照 阿部顕瑞 柳了堅

人事

宗務役員変更

浄土宗宗務庁

教務局長 井川 定慶
 総務局長 新谷 寛心
 学事部長 野中 純道
 庶務部長 藤田 説量
 曹洞宗宗務庁
 宗務総長 中村 貞元
 参議 福山 忍義
 同 乙川 瑞映
 財政部長 村上 道隆
 教化部長 山田 義道
 社会部長 大川 玄道
 秘書室長 若山 運法
 企画室長 芳賀 達宗
 企画室長 上野 徳隆

天台宗宗務庁

参務部長 柴田 昌源
 庶務部長 柴田 昌源
 宗務総長再任
 浄土真宗本願寺派

宗務総長 豊原 大潤
 本山役員変更
 高野山真言宗宗務所
 総本山金剛峯寺
 管 長 津田 実雄
 全日本仏教会新評議員
 中村貞元(曹洞宗) 興文
 文(同) 大川玄隆(同) 若山運法(同) 芳賀達宗(同) 訓嗣信雄(大谷宗) 大谷演慧(同) 星谷慶縁(大谷派) 蓬茨祖運(同) 奥村豪(同) 宮部幸磨(同) 竹内良恵(同) 奥博良(京都府仏) 永尾有祥(仏光寺派) 河合智海(梵人会)

(総局公室) 代表 5051
 八一
 事務総長 神田寛雄(本願寺派) 総務部長 大内察爾(〃) 組織部長 宮部幸磨(大谷派) 国際部長 梶原重道(浄土宗) 教化部長 奥博良(京都府仏) 審議部長(未定) 主事 邨上文 円(大谷派) 主事 八橋秀雄(浄土宗) 主事 小原静忍(本願寺派) 書記 今井秀鳳(〃)

文部省宗務課係
 (廃止) 調査局宗務課
 (新設) 文化局宗務課
 文化局長 蒲生 芳郎
 文化局審 安達 健二
 議官 萬波 教
 文化局長 萬波 教
 務課長

北朝鮮収骨を促進

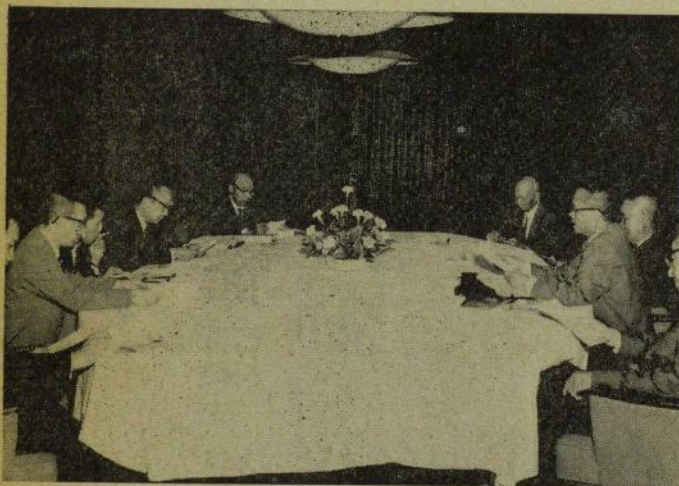
まず先方国に要望書

全仏当局は、愛知大会の決議事項を実現実行するための準備をすすめている。いろいろの案件のうちの一つ、終戦により帰国の途中、国難に殉じて死没し、仮埋葬のままいまなお放置されている北朝鮮在住同胞約三万の遺骨収集と現地での慰霊供養を協議するため、さる六月二十日午後三時から東京銀座の銀座東急

ホテルで打合せ会を開いた。出席者は遺族などで組織している北朝鮮遺骨収集促進運動中央本部の部長白石宗城氏(元日本素専専務取締役) 桜井三郎氏(八幡製鉄重役、社団法人全国清津会副会長) 西本梧作常任幹事(同法人常務理事) 熊野稔常任幹事(同法人理事) 猫本世次幹事(同法人理事) などの諸氏と、愛知

大会で真宗大谷派を代表して提案理由の説明をした大谷派東京宗務出張所次長の大濃田薫一師、全仏当局からは黒田事務総長、伊藤組織局長、阿部総務部長、柳組組長、鎌田国際局主事などが出席して約四時間にわたり意見の交換をした。その結果、まずさしあたり、先方国の金日成首相、朝鮮赤十字委員会、朝鮮仏教団体、文化団体などに対

北朝鮮収骨促進打合せ(銀座東急ホテル)



「財産管理を適切に」 文部省通達、宗教法人に

し、愛知大会の決議をもつてする全仏からの要望書を提出し、先方の関心を同情し、愛知大会の決議をもつて求めることなど、強く積極的に働きかけることになった。

最近、青蓮院問題、本願寺問題など、宗教法人の運営について世人の批判や注目をひいてるところから、文部省宗務課では宗教法人の適正なる運営についてという内容の通達をさる六日付けて出した。これは、全国四十六都道府県知事および文部大臣所

まことに遺憾であります。宗教法人は、本来、信者の教化育成がその主たる目的であります。したがって、その公共性、公益性に深い考慮を払い、つねに、宗教法人法その他の法令、当該宗教法人の規則等に従い、その業務および事業の公正な運営を図り、宗教法人に対する社会の信頼に応える必要があることはいふまでもありません。宗教に対する社会の関心が高まっている折から、宗教法人の運営に関し、かりそめにも一般の誤解を招くことがないように、格別のご配慮を願います。

追悼法要 NHK主催
 実況放送 全仏後援の海外日系人物故者孟蘭盆追悼法要の国際放送は、来る七月十五日に大本山総持寺僧侶出仕のもとに、横浜の同寺から放送されることになった。

スエーデン派遣団
 出発延期
 スエーデン聖書協会の招きで、仏書奉呈日本仏教代表団は六月十九日スカンディナビア航空機で出発することになったが、航空会社のセネストのため九月二十八日出発に延期し、この旨現地側へ通知了承を求めた。なお各宗派から寄贈をうけた仏書は、六月末か七月初旬に海路送付する。



仏教でつつなぐ日韓

日本仏教親善使節団 報告

さる五月八日から十四日にかけて、戦後初めて韓国へ赴いた全仏派遣の各宗合同による韓国訪問日本仏教親善使節団(団長長谷川信祐師)一行十名は、韓国各地で熱烈な歓迎をうけ、仏教による両国の友好を増進し大任を果たして帰国した。これは一行の行動を日を追ってまとめた訪韓の記録である。

五月八日(日)曇のち晴れ

伊丹空港を飛び立ち十六時四十分、ソウル郊外、金浦国際空港へ到着。上空から見る韓国の山々は樹木少なく赤茶けていた。これは李朝時代オンドル用の薪に濫伐したためと云く。

空港には大韓仏教曹溪宗鄭洙魯庶務局長をはじめ仏教婦人会員など代表六名が出迎え、花束を贈られたあとソウル市内へ。すばらしい舗装道路がつづくこと三十分、車はソウル市内に入る。宿舎のホテルニューコリアは十五階建ての近代的ビルである。十八時五十分ホテルを出発し、旅行代理店イースタントラベル主催の歓迎夕食会がコリアハウスで行われる。鄭局長、洪淳晩信徒会副会長、趙社会課長、金同係長らが出席して盛会。二十一時ホテルへもどる。

五月九日(月)晴れ

韓国の気候は湿度が少なく快適である。八時四十分マイクログラスで、韓国動乱で散華した、国連軍兵士の眠る墓地に参拝。当時動乱に参戦した十七ヶ国の国旗が、国旗を中心として五月の風にひるがえり、よく手入れされた芝生の青さが目にいたい。十時五十分バスは市庁前に停車。ソウル市長金玄玉氏は、一行

をにこやかに出迎え市長室へ案内される。熱心な仏教徒である金市長は、一ヶ月ほど前に釜山から転勤された由。テールには日韓両国旗が飾られ、一行は市長の心をこめた、しかもきめこまかな歓迎ぶりに感激することしきり。市長は「韓日両国の交流は精神的な交流、つまり仏教精神が中核となつてはじめて成就されると確信する」と力説される。十一時市庁を辞去。李朝の偉大なる遺産の一つ、昌徳宮に入り李方子妃に謁見。妃殿下は思ったよりお元氣そうである。歓談やら記念撮影やら名残り惜しいひとときをすごし正午すぎ辞去。ついで十二時四十分、大韓仏教曹溪宗本部のある曹溪寺へ到着。同寺住持朴清霞師、李行願法師、慧浄法師、大韓仏教新聞社長李漢相氏ら現韓国仏教界の幹部七名が出席する歓迎午餐会に臨む。韓国独特の珍らしい料理、例えば菓飯とかキムチなどで歓待される。

午後一時三十分曹溪寺本堂前にて仏典の贈呈式がはじまる。まず長谷川団長が全仏岸会長のメッセージを朗読、ついで望月仏教大辞典贈呈目録を読みあげ。望月大辞典十巻が朴住持へ手交された。ついで大韓仏教曹溪宗総務部長李行願師が

感謝の辞をのべたあと、同師より高麗大蔵経十九巻が長谷川団長におくられた。同寺を辞去して李行願師の案内でバスは華溪寺へと向う。

日本人遺骨奉安所

うっ蒼とした山中にある古刹華溪寺には、旧西本願寺別院関係の日本人の遺骨が二千四百体安置してある。一行は本堂で舍利札文を読誦のあと、冥府殿と書かれた堂宇に入る。入口には「日本人遺骨奉安所」とある。堂内左側に白い布で囲まれて日本人遺骨が祀られてあった。一行は李法師ら四人の比丘による廻向に合掌礼拝し、ついで長谷川団長の導師で般若心経一巻を唱える。終戦直後の混乱期に、周囲の反対をおしきって「日本人遺骨奉安委員会」を組織し、当時防空壕などに放置してあった多数の遺骨を収納したのである。実に怨親平等の仏教的見地からなされたもので、感謝せずにはおられない。長谷川団長は韓国仏教徒の一方ならぬ好意に感謝し、一日も早く遺骨を日本へ引取りたいと述べた。見ると祭壇の白木の位牌には「日本国後入各列名霊駕之位」と書かれ、茶褐色の細長い線香が一本、天井に細い香煙をあげている。一行は合掌をくり返しつつ同寺を辞去する。ついでバスは東国大学校へ向う。趙明基氏は同学総長で、韓国仏教界の重鎮でもある。趙総長にはヤングイェーリスト誌、日本と仏教(英文)を五十冊ほど贈呈し、総長室で懇談、総長の案内で各研

究室を参観する。おりしも同学では創立六十周年記念祭の最中で、学生たちの作品が多数陳列してあった。十八時趙総長主催の歓迎夕食会が「アリランハウス」であった。

五月十日(火)曇り勝ち

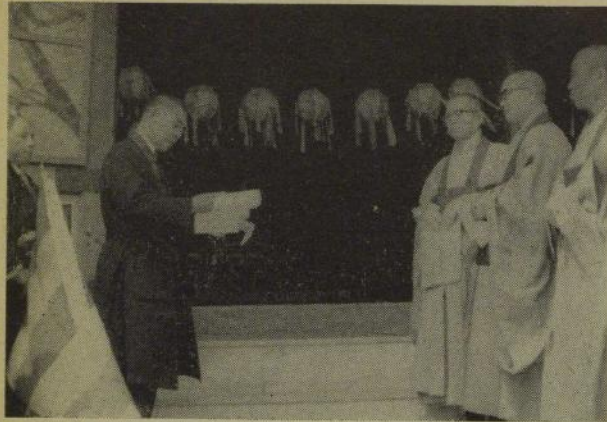
七時四十分ホテルをバスで発ち金浦国内空港へ向う。しかし残念ながら悪天候のため、釜山行き飛行機は欠航とのこと。やむなく九時十分空港からソウル駅へ急行。十時釜山行きの急行列車にやっと間に合う。十六時三十一分大邱駅へ到着。駅頭には大韓仏教曹溪宗全国信徒会大邱支部李祉西氏らが出迎えてくれる。十七時二十分大邱発列車で新羅九十年の古都慶州へ向う。慶州へは十九時四十五分に到着。出迎えの大型チャーターバスで約十二キロの舗装路を仏国寺ホテルへ向う。閑静な山中にあるこのホテルは涼しい。

古都慶州あれこれ

五月十一日(水)曇り
午前四時の起床はつらい。連日の強行軍で一行は綿のように疲れている。石窟庵から拜む日の出は有名なものとのこと。眠い目をこすりつつ一行はバスの人となる。バスは三五キロの曲りくねった山道を登る。石窟庵は海抜一、八七〇尺の山中にある人造石窟で、東洋にはこの遺跡である。さすがに寒い。庵には中央に巨大な釈迦像が安置され、諸仏、菩薩の立像がその周りを円形にとりま

ている。残念なことに、今朝は曇天のため日の出は拝まれず、礼拝に来た多数の韓国人老若男女とともに残念がる。堂守りの許玄法師に挨拶をして、七時にホテルへもどる。

七時四十分ホテルから徒歩で、すぐ近くにある古刹仏国寺に参詣、うっ蒼とした樹木にかこまれた伽藍は、千数百年の歴史を彷彿させるに充分である。同寺総務朴武松師に迎えられ大雄殿で読経し、諸堂参拝のあと、同寺住持榮禪法師に会見。病臥中の禪師は、快るよく迎えて一行に人参茶の接待をして下さる。団長がまず挨拶し、華溪寺の日本人遺骨収納に対する感謝の辞を述べ、今後の仏教による両国交流を強く訴えた。八時半に同寺を去り再びホテルへ。八時五十分バスは、新羅文化の粋をあつめる慶州の遺跡視察に出発する。途中新羅二十九代の武烈王の墳墓をはじめ、同朝五十代の官殿



長谷川団長のメッセージ朗読（曹溪寺本堂前で）

や樓閣、塔など偉大な文化の宝庫を参観し、正午に大邱駅へつく。十二時二十分大邱発の急行にて釜山へ向う。

広大な平野のうちに時折のどかな農村が見られ、一行は教わったばかりの民謡「アリラン」を盛んに口づさむ。南下してきたせいかわし暑くなってくる。十四時二十分釜山駅着。直ちにバスで市長へ挨拶に向う。市長は折悪しく不在のため内務部長に会いいろいろ懇談。同部長は心と心のふれ合いこそ両国の将来をより一層明るくすると力説。十四時五十分市庁をあとにし、海雲台なる温泉地をすぎ一路由緒ある大寺「梵魚寺」へ向う。予定では明日の訪問であったが、日程の都合上急に変更したものの、十六時二十五分同寺へ到着。青青として大木の繁るこの山寺はちょっと福井の永平寺を思わせる。

梵魚寺では突然の来訪にとまどった感じであったが、朴志山副住持らは心から歓迎してくれた。若い比丘達は、一行が明日来訪と云うことで、下山して食料の買出しに出かけたこと云う。本堂で読経し同寺の由緒についての説明をきく。本堂内には「南北統一完遂」と記した立札があり、韓国人の南北統一に対するなみなみならぬ心情を感じとらせる。朴師の案内で、別棟の禅堂へ招かれ茶菓の接待を受け、そこで胸襟を開いての懇談がはじまる。「物質文明と精神文明のアンバランス」を如何に考えているか、そしてどう対処しているかがテーマのすべてであった。有意義な交換が終るとは夕方暮れであった。一行は、朴比丘らと何度も握手を交し、去り難い感を深めつつバスの人となる。宿舎の東萊観光ホテルへは十九時に到着。

食事を終え、一行につき添っている、曹溪宗総務の金院社会係長からいろいろと韓国仏教界の現状についてきく。

五月十二日（木）快晴
今朝は一点の曇もなく、全くの五月晴れである。団長と鈴木師は若干体調悪し

日本人遺骨奉安所（華溪寺）



今朝もすばらしい快晴だ。九時半、バスは市内中心部にある市庁前広場へ到着、三十八度線板門店視察の日だ。バスは九時五十分、ソウルから八十キロ先の南北の接点、パン・ムン・ジヨム（板門店）へ出発する。厳しい検問を二カ所終えて、大河を渡ると、間もなく米軍の駐屯地に着く。一行はその将校クラブで昼食をとり少憩。門もなく再びバスにのり、目指す三十八度線へと向う。幅二キロにわたって設けられてある、非武装地帯を通過すると板門店だ。その昔平和なときは見事な水田であったと思われる湿地帯は、今や雑草に覆われ見るかげもない。ただ白鷺が数羽飛び交うのみで静寂の中に無気味がひしひしと肌を迫るようだ。道の両側には鉄条網がはられている。かつて動乱の際、共産軍が埋め残して行った地雷があるためとのこと。

。十時半バスは国連軍墓地へ向い、団長から花束が捧げられ一同黙禱。十一時半バスは再び釜山市内へもどる。途中竜頭山公園にて小憩、昼食は市内の日本料理店「香苑」にてとる。サンミ、テンブラに一行大喜びである。交通渋滞に合い、離陸直前の旅客機にようやく間に合う。十三時五十分、一行のため予定より約十分遅れて機は金浦空港着十四時五十分。空港からバスは南山公園へ直行する。南山からの眺望はすばらしく、一望のうちにソウル市街が眺められる。コリヤハウスの旅行社主催の夕食会には、朝鮮服姿の李方子妃も同席される。韓国食に慣れた一行の健啖ぶりは驚ろくほどである。二十時宴を終って、ウォーカーヒルにある、ダグラスホテルに入る。パン・ムン・ジヨムへ

やがて行く道のつき当りに、共産側の検問所が見えてくる。北鮮兵が二名物珍らしそうに一行を凝視していた。十一時十分かの歴史的な休戦会談所跡へ到着。一行は緊張した面持でバスを降り、ガイドが①グループで行動すること、②共産側の兵士と会話したり手を振ったりはしない、③共産側兵舎に近づかないことを告げる。板門店にある兵舎は共産側と国連側とが一群落になっている。兵舎は青色が国連側、緑色が共産側と云う風に区別されている。ガイドに「これらで小高い丘に登ると、北鮮（韓国人は北韓と呼んでいる）領が眼下にパノラマ状にひろがって見える。中央に大きな河が流れ、一本の白い橋が何となく無気味に目に映る。「あの橋が帰れない橋です」と説明される。米軍MPは終始つきっきりである。共産側兵舎の前で説明を聞いていると、どこからともなく制服の北鮮兵が数人出て来て垣根越しに立ち並ぶ。一行との距離は二十米ほどで相手の表情は手にとるようになか。中には手招きしている北鮮兵もいた。

五月十三日（金）快晴

一行は緊張しきった表情のまま、十四時にこの地をあとにする。
 帰路周囲の小高い丘陵地帯には、かつて動乱の際に掘られた塹壕や、銃座がそのまま残っており、コンクリートの土止めには砲弾の跡が生々しい。緊張の連続でつかれたのが、帰りのバスの中はいねむりをする人が多い。十六時三十分、バスは先刻出発したソウル市市庁前に無事帰る。
 今夜の宿舎は半島ホテルである。このホテル五階に日本大使館があり、五階の窓から日章旗が翻がえっていた。
 長谷川団長と田中副団長、鎌田事務長の三人は大使館に挨拶に向う。大使は不在で三浦参事官に会い、来訪目的を述べ、日本人遺骨収集送還について今後便宜を計るよう申入れる。同参事官は遺骨の日本送還問題は、やはり同じ仏教徒と云う立場から、スムーズに運ぶと思う。大使館もできるだけのことはしたいと申述べた。各自ホテルで少憩したあとと自由時間として買物をすぐ近くのアーケードです。十九時三十分迎えのバスに分乗して、大韓仏教新聞社長李漢相氏の招宴に向う、これが最後のプログラムだ。ソウルのはづれにある氏の自宅はなかなかしよう洒である。芝生に庭園灯が青白い光を放ち、遠くにソウル中心街の灯が点滅して見事な眺望である。李氏は韓国における十財閥中の一人と云うことで、なるほどと思う。この仏教新聞は週刊紙ではあるが、毎回国内に三万部、海外に二千部ほど発送されている由で、この費用はすべて李社長が拠出しているとのこと驚ろかされ、また敬服させられる。
 李社長による歓迎夕食会は、純粋な韓国料理がサーヴスされすばらしかった。席には総務院長孫慶山師長各院長法師、李行願総務部長、鄭局長曹溪宗の現韓部が全員出席した。宴がすみ別室で大韓仏教新聞社製作の「李王殿下の葬儀」と「韓国の仏教」が上映され、九時四十分李氏宅を辞去。

五月十四日(土) 晴れ
 いよいよ離韓の日だ。九時十五分バスで金浦国際空港へ向う。空港には趙明基東国大学総長、鄭局長らが見送って下さり、特別待合室でお互いに別れを惜しむ。
 今はもう見なれた赤茶けた山々がだんだんと遠くなる。長い苦悩の歴史をもつ韓国の将来よ、洋々たれかしと祈らざるを得ない。そして真の日韓交流は政治色を超えた仏教の和の精神、相互信頼の精神でなければ開かれぬと感じた。



天地眼

☆ 愛知大会も関係各方面の絶大なるご協力によって、無事盛大に終了したことはご同慶に堪えないところで感謝のほかありません。

☆ 大会終了とともに、さっそく、決議の具現化、当面の山積する事業計画の実施に事務総局あげて奮闘している。
 ☆ 本号は愛知大会の記録を主にして大会参加者へもお送りし、今後さらに全一仏教運動の推進にお力添えを願うこととした。
 ☆ この機関誌編集のため多忙の中を弘報委員会ははじめ、とくに西本梧作専門委員のご指導ご協力に心から謝意を表すものである。(柳)

感謝録

- ダルマ、パール生誕百年
 記念仏教会館建設寄附金
 一金二十万円(第二回分)
- 曹洞宗宗務庁殿
 一金三十万円
- 浄土真宗本願寺派
 宗務所殿

目一ロツパ派遣団メ切迫る

「全仏通信」購読のお願い
 この「全仏通信」は各宗派、府県仏などの加盟団体をはじめ、対外関係へひろく配付しておりますが、個人からの購読希望者が相当ありますので、このたびこの要望にこたえて実費頒布をすることにしました。購読ご希望の方は同封振替用紙で至急お申込み下さい。
 一ヶ月分送料共に二〇〇円

全日本仏教会

期間 十月十八日より十一月八日(二十二日間)
 訪問先 英、仏、独、伊、オランダ、スイス、ベルギー各地のキリスト教代表者との会談及び保育施設の視察
 費用 三十九万五千円(但し団費及び個人的出費は含みません)
 申込先 全日本仏教会(東京都中央区築地本願寺内)
 電話 (五四二二) 二九六九、八六六六 (五四二一) 〇三一三番へ
 締切 八月三十一日必着、手続きは九月に入り早々行います。

主催 全日本仏教会